

〔御湯殿の上の日記〕慶長三年五月四日、玄やうぶの御まくらくわんじゆ寺大なごんよりまいる。玄ゆごうの御かたひろはしながばしより、玄やうぶの御まくらまいる。玄やうぶの御まくらつ
つみ候うすやう、玄んぐら人よりまいる。

〔大江俊矩記〕寛政四年五月朔日戊戌菖蒲枕獻上。今年年初年也。朝飯後青侍麻上長橋奏者所へ爲持遣。

菖蒲枕二把

一包元上々奉書、當時御省略中故、用次奉書無シ。

二重繩目錄臺二乘セ

下ヶ札

大江とし矩上

右之通ニ仕立獻上相濟仙洞女院右同様各後到可有披露旨返答承り歸由也。

文化十二年四月十四日己巳菖蒲枕之事不伺來故今朝新町下立賣經師五兵衛方へ申付遣處昨年五兵衛病死妻子分散其後家大宮下立賣ノ寺へ臺所賄ニ參居由町之會所ニ而承歸故又々其寺へ尋ニ遣處今ハ其寺ニモ不居新烏丸夷川邊ニ宿有之間其宿ニ而可尋合其寺ニ而被教下ノ町へ罷越漸尋當り裏屋ニ後家一人居候由仍菖蒲枕之事相尋處猶相玄らべ明日有無之御返事可申上由承歸也十五日庚午表具屋源七當時高辻通油小路西入所ニ住居云々來是經師吉兵衛悴也親吉兵衛前廉菖蒲枕年々調進候處右五兵衛儀も昨年病死仕相續難仕右菖蒲枕之形經師五兵衛へ預ケ置此者より年々調進仕候處右五兵衛儀も昨年病死仕相續難仕候ニ付則菖蒲枕之形私方へ相戻シ申候故當年より私調進仕候間不相替御用被爲仰付被下度奉願候尤自先日罷出此段御斷申上可相伺心得ニ罷在候處日々多用ニ取紛且遠方故一日々々延引仕候處昨日御使被成下候由五兵衛後家より申聞ニ付不取敢今日御伺參上仕旨申來也仍吉兵衛儀ハ前廉調進候事當家ニも存居事故無子細之間如前々當年より可調進當月二十五日迄ニ可相納様申付了尤來年よりは四月